

## 女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー（啓発活動）を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

- マタニティ白衣の貸出
- お留守番医師制度
- メンター制度、メンター連絡会議
- キャリア支援セミナー
- クローバーセミナー
- 学童保育のニーズ調査
- 広報活動（ホームページ、テレビ、雑誌掲載、チラシの作成等）
- 学会・講演会などでの発表、情報交換
- 学生への啓発活動として、「医学生・研修医等をサポートするための会」開催や、1学年・4学年への講義

### ◆ 相談業務

熊本県女性医師キャリア支援センター（熊本大学病院内に設置、専任医師1人、コーディネーター1人）が相談窓口。

### ◆ 相談件数

2019年度（2019年4月1日から2019年1月31日まで）は総計74名から相談や制度のお問い合わせがありました。うち29名が男性で、「お留守番医師制度について」「求人のお問い合わせ」「ネットワークづくり」に関する問い合わせが多く、45名が女性で、「お留守番医師制度について」「保育施設について」の相談が多くありました。

相談の総内訳（延べ相談数）

2019年4月1日～2020年1月31日 ▼

お留守番医師制度について	17
働くこと働き方についての相談	2
求人の問い合わせ	11
保育施設について	11
支援制度についての問い合わせ	6
ネットワークづくり	14
復職相談	3
メンター制度について	1
同僚・医局の医師について	3
子育てについて	0
社会保障等について	1
マタニティ白衣・パンツについて	5

### ◆ マタニティ白衣、マタニティパンツの貸し出し

今年度2月末時点での利用者は6名でした。今後も妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと思います。（白衣はSサイズ10着、Mサイズ10着。スクラブパンツは平成29年5月作成、Mサイズのみ10着あり。）



### ◆ 育児支援

山都町包括医療センターそよう病院において院内で子育てを援助する仕組み（病院職員OBや地域住民が子育てサポーターとして保育に協力してくれるシステム）「そよ風サークル」を設立。今年度も、そよう病院「子育て勉強会」のコーディネート協力などを通して、設立に向けた必要な支援を行いました。

## ◆ お留守番医師制度

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関（現在20医療機関）と連携しています。復職希望医師にとっては週1回（場合によっては月1回も可）からの復職が可能で、在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保につながり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの互助システムです。熊本県女性医師キャリア支援センターの復職コーディネーターが復職希望者の体験申し込みを受けて、在宅医療を開始したいドクターとつなぎ、体験日を決めます。体験がうまくいけば、当事者同士で3か月更新の雇用契約を結びます。

この制度で勤務中には、熊本市医師会保育所「メディッコクラブ」が無料で利用できます。

今年度は1名の医師がこの制度を利用し復職されました。その他、昨年度からの継続4名 体験のみ1名合わせて5名がお留守番医師制度を利用中です。

### お留守番医師制度に加入している医療機関 (2020年2月28日時点) ▼

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明牛橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池都市医師会立病院
宇城市	中村医院

**診療所の先生方 訪問診療時間に「お留守番Dr」システムを利用してみませんか？**

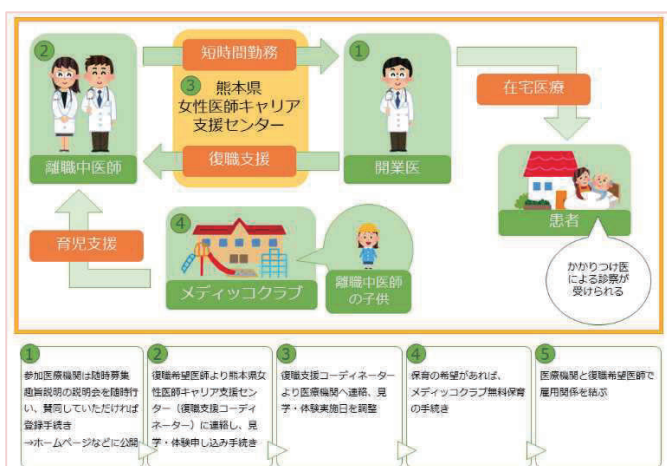
かかりつけの患者さんの訪問診療をお断りされたことはありませんか？  
訪問診療に割く時間がない、ましてやもう一人医師を雇う経済的な余裕なんて・・・

解決できます

長年培われた先生と患者さんの関係をそのまま継続し、患者さんの自宅に赴く訪問診療に取り組まれてはいかがでしょうか？  
貴院の外来診療に協力してみようと思っている医師に、医療機関の情報を開示し、まずは体験の機会を得て頂くシステムです。条件が合えば外来診療の協力が繋がればと思います。

県下各地域で伺ったお話を元に、在宅医療へ取り組む医師への応援団として、この事業を企画しました。  
県内どこへでも、詳しい説明に参ります。地域の先生方にもお声かけいただければ幸いです。

**お問い合わせ：熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター内）**  
TEL:096-373-5795  
メールアドレス：k-joseishi@kumamoto-u.ac.jp  
復職支援コーディネーター 高塚 貴子



## ◆ 広報活動

- ・ ホームページ、携帯サイトの運営をしています。
- ・ ホームページでは、復職支援、短時間勤務、育児支援、メンター制度、セミナー情報、求人情報（HP掲載28件）マタニティ白衣の貸出、相談窓口、介護情報などを掲載しています。
- ・ Facebook及びTwitterネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- ・ 「熊大通信」、「くまにちすばいす」に熊本県女性医師キャリア支援センターの取組についての記事が掲載されました。
- ・ パンフレット2000枚作成（A4版：1000枚、3つ折り版：1000枚）し、相談者や各種セミナー、授業の際に医学部生へ配布しました。
- ・ 熊本県女性医師キャリア支援センター/熊本県地域医療支援センターの名称入り手提げ袋を各種セミナーで配布しました。



## ◆ 学会・講演会での発表、情報交換

- ・ 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（R1.5.17～19）シンポジウムパネリスト「ずっと働きたい職場を目指して」
- ・ 第6回九州山口家庭医療・総合診療セミナー（R1.6.30）講演「女性医療者としてキャリアを考える」
- ・ 熊本市公的病院等地域連携協議会（R1.8.20）講演「医療人の働き方改革を進めるために」
- ・ 令和元年度自治医科大学熊本県人会総会（R1.10.12）シンポジウムシンポジスト「これからのへき地医師・女性医師の支援について」
- ・ 女性医師支援センター事業九州ブロック会議（R1.10.19）報告「地域でも活躍できる環境の好事例」
- ・ 第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式 日本医師会女性医師支援シンポジウム（R1.11.30）受章者・シンポジウムシンポジスト



## ◆ 学生への啓発活動

- ・ 1学年講義： R1.7.8 医学概論「男女共同参画」
- ・ 4学年講義： R1.5.15 医療と社会Ⅰ「男女共同参画」
- ・ 熊本県医師会主催 令和元年度 医学生・研修医をサポートするための会「やりたいことをあきらめない！Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」の共催

## ◆ 女性医師キャリア支援に関するネットワークの構築

- ・ 熊本県地域医療支援機構、熊本県医師会男女共同参画委員会、熊本市医師会女性医師キャリア支援センター、熊本大学病院男女共同参画推進委員会で協力して組織した「熊本県医療人キャリアサポートの会（クローバーの会）」の活動において、各機関が連携して講演会やセミナーなどの啓発活動、短時間勤務制度の有効活用などのための相談業務、育児支援等を実施し、女性医師の勤務の継続、円滑な職場復帰等を進めています。
- ・ 地域枠医師の受け入れ先となる知事指定医療機関についても、女性の地域枠医師の勤務が増えることが確実なことから、各種セミナーへの参加等を強く促して、女性医師の働き方や職場環境においてさらなる配慮の必要性を理解いただくよう促しています。
- ・ 今後、知事指定病院等状況調査の結果を踏まえて、女性医師のキャリア形成と働き方について、勤務環境改善センターとも連携して、女性医師が働きやすい、安心して子育てのできる環境の中でキャリア形成が図られる環境づくりを進めていきます。

## ◆ メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

メンターとして現在29人の男女医師が登録しており、メンティとして現在2名の女性医師が登録しています。メンター自身のスキルアップを目的に、今年度は1回「メンター連絡会議」を開催しました。

令和元年5月15日

議題：座談会「日本の男性医師と女性史のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか」

日時 2019年5月15日（水）11：30～14：30

場所 熊本大学病院 山崎記念館1階会議室

座談会メンバー：

九州中央リハビリテーション学院 学院長 河野 文夫 先生

広島大学大学院医系科学研究科教授 医学教育センター副センター長 蓮沼 直子 先生

熊本大学大学院生命科学研究部 法医学分野 教授 西谷 陽子 先生

熊本大学病院地域医療支援センター助教 後藤 理英子 先生

## ◆ クローバーセミナー

2020年2月7日金曜日 19:00～21:00

熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー

「医療人がOne Teamで働くために」

クローバーの会（熊本県医療人キャリアサポート）では、女性医師キャリア支援の観点から、男女共同参画推進活動にも積極に取り組んでいます。今回のセミナーでは、熊本県における取り組みをご紹介しますとともに、下記の先生方に、女性医療人の復職の壁と支援の在り方について管理職や弁護士の立場からご発表とディスカッションをしていただきました。

【出席者：40名】



開催のあいさつ

熊本県地域医療支援機構理事

熊本大学病院 地域医療支援センター 准教授

谷口 純一 先生



1、「クローバーの会活動報告」

国立病院機構熊本医療センター院長 熊本県医師会男女共同参画担当理事

クローバーの会会員

高橋 毅 先生



## 2、「女性医師支援～ハードとソフトの両面から考える～」

千葉大学病院脳神経内科准教授

医師キャリア支援センター副センター長 三澤 園子 先生

ハード面からの支援である学童保育について、ソフト面からは家庭内の協力についてご講演いただきました。



## 3、「労働法制を使いこなそう～医療人がOneTeamで働きやすくなるために～」

日本医師会日医総研 主任研究員 上家 和子 先生

労働法制について分かりやすく説明していただき、女性が継続して働くことを阻害する敵はどこにあるのか知識を持つておくことの重要性を感じました。



## 4、パネルディスカッション「復職の壁を考える」

ふじき法律事務所 弁護士・医師 藤木美才 先生

事例の問題点がどこにあるのか、国の政策の方向性について明らかにしていただきました。

事例1：熊本大学病院 皮膚科 助教 青井 淳 先生

事例2：荒尾市民病院 脳神経内科 部長 大嶋 俊範 先生

事例紹介では復職したくてもできない事例を紹介していただき、部長、医局長のご苦勞が身に沁みました。



閉会のあいさつ

クローバーの会会員

天野整形外科皮膚科 副院長 天野 富紀子 先生



閉会のあいさつ

熊本県医師会男女共同参画委員会 副委員長

みわクリニック 院長 秋月 美和 先生



今回はテレビ会議で熊本市外からもディスカッションに参加していただきました。活発な議論となり有意義なセミナーとなりました。

### ➤ クローバーセミナーのアンケート結果（一部抜粋）

回答：10名

性別：男性5名 / 女性5名

職業：医師6名 看護師0名 医療関係者1名 そのほか1名、事務2名

#### 【これまでに復職の壁を感じたことはありますか？】

- ・育児休業から復職すると、入る前と同じ働く環境ではないことが絶対的に多いと思いました。
- ・二人目を出産後、これまでの綱渡りの生活に疲れ一年間育休を取った。
- ・（昔の話ですが）産休明けに復帰した際、本人との話し合いなく他の医師と同じように当直を割り当てられていた事。
- ・24時間在宅医療にも従事していた際、妊娠が分かり辞めました。産休、育休制度も知りませんでした。知識が足りなかったと反省。

#### 【職場に必要なOneTeamで働く為の工夫】

- ・託児所やフレックス勤務、自宅勤務など。
- ・女性医師を働きやすくする為の働きかけ。
- ・思いやりで休職した人の事情を考える。
- ・制度の理解、組合活動の認識、職場の意識改革とシステムの導入、業務改善への取り組み。
- ・院内託児、時短勤務、残業保障。

◆ その他セミナー

主催

令和元年度キャリア支援セミナー「あんがーまねじめんと 応用編」  
2019年5月14日火曜日 18:30～20:00

2019年度キャリア支援セミナー  
あんがーまねじめんと  
"Anger management"  
▶ 入門 ▶ 応用編

アンガーマネジメントは1970年代に米国で始められた、イライラの感情を自ら管理し、適切な問題解決やコミュニケーションに結びつける心理療法です。  
以前開催した入門編では、怒りの仕組みを中心に学びました。2回目となる今回は、前回の入門編の内容をおさらいし、さらに応用編として、自分の怒りを相手に理解してもらえよう伝えるにはどうしたらよいかを学びます。  
初めて参加される方もお気軽にご参加ください。

日時 2019年5月14日(火) 18:30～20:00

場所 熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター 奥達記念ホール

講師 広島大学医学部附属  
医学教育センター 教授  
蓮沼 直子

対象者 医学生・医師

主催 熊本県地域医療支援機構

お問い合わせ：  
熊本県地域医療支援機構（熊本県民4階）  
TEL 096-373-5627  
E chikiryu@kumamoto-u.ac.jp  
http://www.chikiryu-kumamoto.org/



広島大学大学院医系科学研究科教授  
医学教育センター副センター長  
蓮沼 直子 先生

イライラの感情を管理し、適切な問題解決やコミュニケーションに結び付けるため、怒りの沈め方、自分の怒りを相手に理解してもらえるよう伝えるにはどうしたらよいかについて学びを深めました。

参加者【19名】

共催

医学生・研修医をサポートするための会セミナー  
「Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」  
2019年11月13日水曜日 18:30～20:30

やりたいことをあきらめない！

令和元年度 医学生、研修医をサポートするための会  
**Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン**  
Physical assessment lesson

講師：北野 夕佳 先生  
聖マリアンナ医科大学病院  
救急救命センター 助教

的確な身体診察は患者さんの運命を定える—  
そんなポリシーを常に実践されているDr.Yukaに学ぶ絶好の機会です。  
ワークショップ後、予定しながらやりたいことをあきらめないコツも聞けるかも！

開催日時：2019/11/13 18:30～20:30  
場所：熊本大学大学院生命科学研究部附属  
臨床医学教育研究センター 奥達記念ホール  
対象：医学生、研修医、若手医師（男女問わず）  
参加費：無料  
申込期限：2019/10/31

参加申し込みはこちら

QRコードを読み込み、入力フォームから申し込みをしてください。  
なお、参加者には専用のIDとパスワードをお送りして、簡単な事前学習をしていただく必要があります。

お問い合わせ：熊本県医師会事務局 TEL (096) 354-3838 主催：熊本県医師会 共催：日本医師会、熊本大学病院地域医療支援センター



聖マリアンナ医科大学病院  
救急救命センター  
助教 北野 夕佳 先生

医学部生、若手医師が参加しフィジカルアセスメントレッスンをしていただきました。楽しく身になるレッスンで、低学年から現役の医師まで、明日から使えるよりスピーディーに正確な診断に導くことができる診察方法を学びました。

参加者【15名】

◆ 新聞記事

熊本大病院 平成31年(2019年)4月3日 水曜日

### ことばの点滴

熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く

「臨床的意義の低い5つの診療行為」

- 1 医療のない成人患者に対する「PET-CT検査によるがん検診」
- 2 医療のない成人患者に対する「血清CEAなどの腫瘍マーカー検査によるがん検診」
- 3 医療のない成人患者に対する「MRIによる脳ドック検診」
- 4 特異的な腫瘍を訴えない患者に対する「形式的な腫瘍CT検査」
- 5 臨床的に適用のない患者に対する「形式的な尿道パルペータールの腫瘍」

患者にとって検査や治療が本当に必要で十分なものか、判断するのはとても難しいことです。米軍では、過剰で不必要な診療を防ぐため、医師の賢い選択を目指す「Choosing Wisely」という運動が普及しています。熊本大病院地域医療支援センターの高柳宏史・特任助教に聞きました。(高本文由)

「臨床的意義の低い5つの診療行為」

「PET-CT検査によるがん検診」

「血清CEAなどの腫瘍マーカー検査によるがん検診」

「MRIによる脳ドック検診」

「形式的な腫瘍CT検査」

「形式的な尿道パルペータールの腫瘍」

熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く

「臨床的意義の低い5つの診療行為」

「PET-CT検査によるがん検診」

「血清CEAなどの腫瘍マーカー検査によるがん検診」

「MRIによる脳ドック検診」

「形式的な腫瘍CT検査」

「形式的な尿道パルペータールの腫瘍」

熊本大病院 平成31年(2019年)4月10日 水曜日

### ことばの点滴

熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く

「上手な受診 患者自身が「主人公」」

「医師にかかる10箇条」

- 1 伝えたいことはメモして準備
- 2 対話の始まりはあいさつから
- 3 よりよい関係づくりはあなたにも責任が
- 4 自覚症状と病歴はあなたに伝える大切な情報
- 5 これからの見通しを聞きましよう
- 6 その後の変化も伝える努力を
- 7 大事なことはメモをとって確認
- 8 納得できないときは何回でも質問を
- 9 医師に何も不確実なことや疑問がある
- 10 治療方法を決めるのはあなたです

医師にかかる10箇条

「上手な受診 患者自身が「主人公」」

「医師にかかる10箇条」

熊本大病院 平成31年(2019年)4月16日 火曜日

### 地域医療向上に貢献を

熊本大病院、天草市に拠点

天草地域医療センター 玄関前に設置された看板の前に立つ関係者ら=天草市

「赤池一光」

「地域医療向上に貢献を」

「熊本大病院、天草市に拠点」

「天草地域医療センター 玄関前に設置された看板の前に立つ関係者ら=天草市」

熊本大病院 平成31年(2019年)4月16日 火曜日

### 地域医療向上に貢献を

熊本大病院、天草市に拠点

天草地域医療センター 玄関前に設置された看板の前に立つ関係者ら=天草市

「赤池一光」

「地域医療向上に貢献を」

「熊本大病院、天草市に拠点」

「天草地域医療センター 玄関前に設置された看板の前に立つ関係者ら=天草市」

熊本大病院 令和元年(2019年)8月18日 日曜日

### 県出身医学生 地域医療学へ

熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く

「県出身医学生 地域医療学へ」

「熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く」

熊本大病院 2019年(令和元年)8月24日 土曜日

### 医学生27人が上球磨へ

熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く

「医学生27人が上球磨へ」

「熊本大病院地域医療支援センター特任助教 高柳 宏史さんに聞く」

令和2年1月31日（金）くまにち すばいす掲載

気になるあの人にインタビュー

Kumamoto  
**すてきびと**  
Wonderful Person

熊本県女性医師キャリア支援センター 専任医師  
**後藤 理英子**さん  
Rieko Goto



**結婚、出産後の女性医師をサポート 生き生きと働ける現場を増やしたい**

女性医師の復職・就業継続支援に力を注ぐ後藤さんは大学病院入局後すぐに結婚、出産しました。「現場を離れ育児をしている間、医師として置いていかれるのではないかと焦りを抱える毎日でした」。出産後2カ月で一度、復職したものの、フルタイム勤務や当直ができないと臨床で勤務を続けることは難しいと身をもって経験しました。

その後、大学病院の代謝内科の研究員として仕事を続けながら「もっと女性医師が生き生きと活躍できる場を広げたい」と、院内にある県女性医師キャリア支援センターにも2014年から所属。同じ境遇に悩む女性医師に短時間勤務が可能な病院を紹介するほか、キャリア支援に関するセミナーや育児支援の情報提供を行ってきました。

この実績が認められ昨年、日本初の産科女医・楠本イネの偉業を顕彰し医療分野で活躍する女性を表彰する「西予市お伊ネ賞」の全国奨励賞を受賞。目指していた博士号と総合内科専門医の資格も取得し、「女性医師が現場でアカデミックキャリアを積んで行けるような支援をさらに充実させたい」と語ります。

**Time Schedule**

6:00 起床	20:00 子どもを預けているシルバーさんへお迎え
8:00 外来の病院へ	20:30 夕食
12:30 昼食	22:00 就寝
13:30 院内会議	
19:30 終業	

**Information** 復職希望の女性医師のための相談窓口  
HP(<http://kumamoto-joselishi.jp>) 問合センター☎096(373)5795

公益社団法人 日本医師会  
**女性医師支援センターから**

「第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウム」開催のご報告


令和元年11月30日（土）に愛媛県西予市宇和文会館にて「第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウム」が開催されました。

西予市お伊ネ賞事業は、日本初の産科女性医師でシーボルトの娘「楠本イネ」の偉業を顕彰し、その志を継ぎ、女性医師を奨励することで社会における女性の活躍推進を図り地域活性化につなげることを目的に平成24年度に創設されました。

第1部では、医療活動や医学研究に活躍する女性医師や女子医学生の表彰が行われ、本年度は日医推薦の後藤理英子先生が「全国奨励賞」を受賞された他、2名の方が受賞し、表彰されました。

**【受賞者】**

- 「全国奨励賞」  
熊本大学病院地域医療支援センター 特任助教 後藤 理英子 氏
- 「地域奨励賞」  
愛媛大学大学院医学系研究科小児科学講座 教授 江口 真理子 氏
- 「医学生奨励賞」  
愛媛大学医学部 医学科 5年生 武田 遥奈 氏



西予市では「平成30年西日本大雨災害」からの復興を目指し、強い思いをもって歩みを進めています。そこで第2部の女性医師支援シンポジウムでは、「復興元年もっと元気に もっと素敵に」をテーマとし、市民講座では順天堂大学医学部教授・東京都医師会理事・スポーツ庁参与の小林弘幸先生が、「健康の正体～自律神経と腸内環境を整えて毎日元気～」と題し、ゆっくり生きることの重要性を講演。また基調講演では、横倉義武会長が「健康な社会を作ろう」と題し、医師会の役割を語るとともに、明るい健康長寿社会に向けた見解を説明しました。

同時に開催されたパネルディスカッションでは、今回お伊ネ賞を受賞された3名と過去の受賞者3名で「医療界の男女共同参画～女性医師の働き方～」について意見交換を行いました。

当日は市民の皆様、医療関係者を合わせ約600名にご来場頂き、大変盛況のうちに幕を閉じました。

**医師の求人・求職は**  
日本医師会女性医師バンク <https://www.jmawdbk.med.or.jp/>

**登録件数** 求職者数1,431人（累計）、求人施設数5,589施設（累計）、就業決定及び再研修紹介1,013件（累計）（令和元年11月30日現在）

**問い合わせ先** 女性医師支援センター（女性医師バンク）  
☎ 03-3942-6512 ✉ info-bank@jmawdbk.med.or.jp



## 熊本大学病院地域医療支援センターの後藤理英子特任助教が第8回西予市お伊ネ賞を受賞しました

11月30日（土）に愛媛県西予市で開催された第8回西予市お伊ネ賞事業表彰式において、後藤理英子熊本大学病院地域医療支援センター特任助教が全国奨励賞を受賞されました。

愛媛県西予市、日本医師会、愛媛県医師会が主催する同事業は、シーボルトの娘「楠本イネ」の偉業を顕彰し、現代女性の活躍推進や地域の活性化を図ることを目的としており、その志を継ぎ医学研究や医療活動に活躍する女性を対象に表彰・激励されているものです。

後藤特任助教は、子育てをしながら臨床・研究の仕事を継続し、また、その経験を活かして熊本県女性医師キャリア支援センターや熊本大学病院において男女共同参画を推進しています。女性医師・女性研究者が能力を発揮できるための環境づくりに尽力しているこれらの業績が評価され、今回の受賞に繋がりました。



第8回西予市お伊ネ賞受賞者（左が後藤特任助教）